

## 4 田代の自然とその変化

ここでは埋め立て工事前と工事以降の自然環境特性の変化について示します。

### (1) 植物

#### 1) 植物相（出現種）

これまでの調査で田代地区及びその周辺域では、129科 778種の植物種が確認されています（資料3参照）。当該地域の植物相は温暖な気候条件のため、暖温帯系（ヤブツバキクラス）の植物を主体とし、そのほか地理的分布の限られる種も確認されています。

#### ● 暖帯系の植物

コシダ、ウラジロ、フモトシダ、ホラシノブ、オオバノイノモトソウ、オオバノハチジョウシダ、タチシノブ、コバノカナワラビ、ヘラシダ、コモチシダ、マメヅタ、ササユリ、キチジョウソウ、コ克蘭、クモラン、アラカシ、コジイ（ツブラジイ）、サネカズラ、クスノキ、ヤブニッケイ、タブノキ、リンボク、クロガネモチ、モチノキ、ヤブツバキ、サカキ、ヒサカキ、オニシバリ、ツルグミ、カクレミノ、アオキ、モチツツジ、イズセンリョウ、ヤブコウジ、マンリョウ、クチナシ、アリドウシなど

#### ● 分布の特異な植物

- ・ 静岡県が分布の西限、東限：カンアオイ（西限）、スズカカンアオイ（東限）、ナナミノキ（東限）
- ・ 関東中部地方のみに分布：セキヤノアキチョウジなど
- ・ 特殊な立地に生育する植物：ドウダンツツジ（蛇紋岩）、イワヒバ（矢倉山崖部など）、キリンソウ（矢倉山崖部）

これらに加えて、田代地区は盆地地形に特徴づけられ、沢部～低地部は空中湿度が高いためにシダ植物が多いほか、カヤラン、クモランなどの着生ランが見られるのが特徴的でした。また、埋め立て後は、林縁部にカラスザンショウ、アカメガシワ、ヌルデ、タラノキ、クサギ、ススキなどの陽生植物が多く、埋め立て部の平坦地にはタチスズメノヒエ、シマスズメノヒエ、オオクサキビ、オオケタデ、ケアリタソウ、オオアレチノギク、アレチハナガサ、セイタカアワダチソウ、ブタクサ、ホウキギクなどの帰化植物が多くなりました。

#### ● 注目種

埋め立て前の1997年の調査では、沢や樹林を中心に植物注目種（レッドデータ記載種などで、オオバノハチジョウシダ、ササユリ、シライトソウ、エビネ、ジガバチソウ、カヤラン、イワタバコ、カンアオイなど）が確認されました。このうち埋め立て部分に生育する17種1061株を埋め立て前の2000年に周辺の未改変部へ移植しました。

● 大径木

埋め立て前の1997年の調査では、当該地域においてスギ、コジイ（ツブラジイ）、モミなどの大径木（胸高直径50cm以上）が58本、確認されていました。その後、埋め立て部分に生育していた20本は伐採消失しました（図4.1.1）。

なお、「1. 田代の歴史と文化」の項でも示したように、埋め立て前の田代地区には、若宮八幡宮の近くに、サカキ（胸高直径33cm：2022.4.20現在）があり、田代の人々に神樹として大事にされていました。このサカキは埋め立て工事の際には伐採するに忍びなく丁仏参道入口へ移植されています。その後、樹勢は衰え（頂端部は枯死）しましたが、新しい樹幹を伸ばしています（写真4.1.1）。

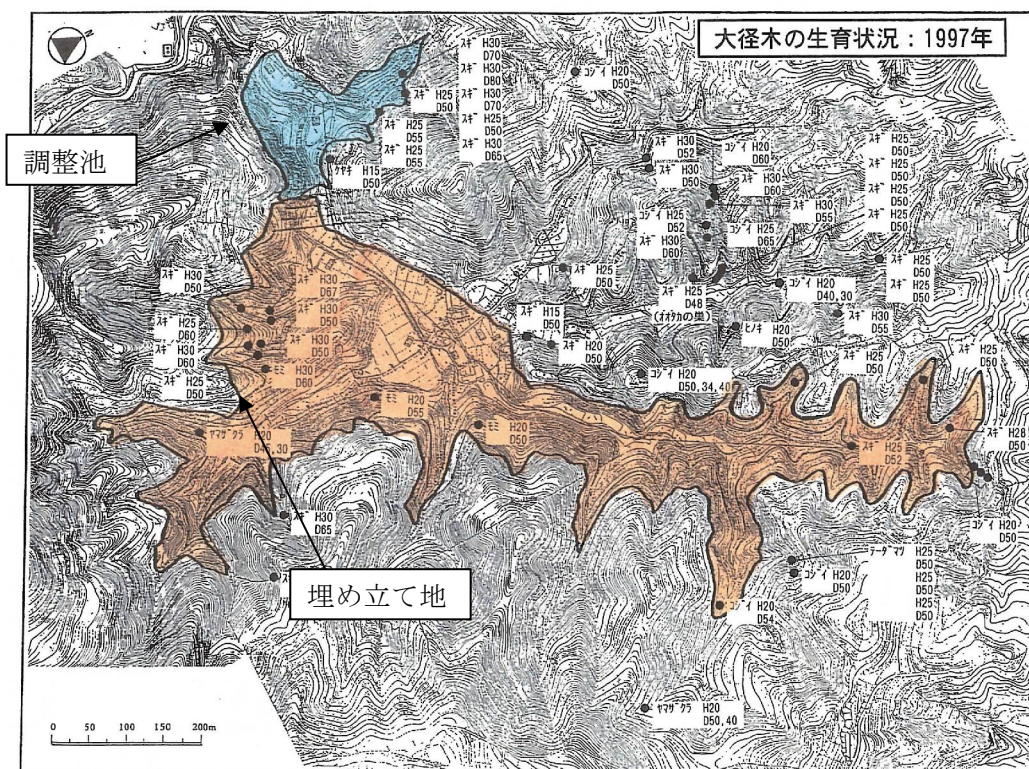


図 4. 1. 1 大径木（胸高直径 50 cm以上）の生育状況

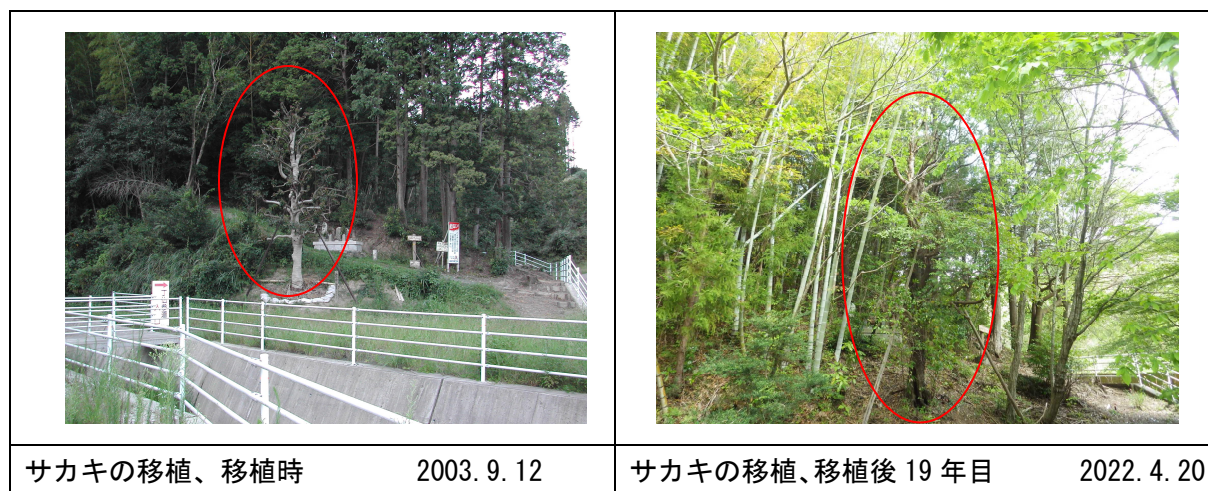


写真 4. 1. 1 若宮八幡宮のサカキの移植







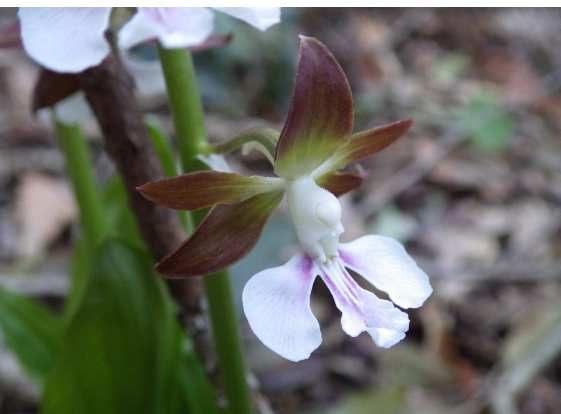

	
<p>オオバノハチジョウシダ (イノモトソウ科) 2010. 8. 9</p>	<p>ササユリ (ユリ科) 2013. 6. 7</p>
	
<p>シライトソウ (ユリ科) 2019. 5. 31</p>	<p>カヤラン (ラン科) 2007. 6. 28</p>
	
<p>エビネ (ラン科) 2017. 4. 28</p>	<p>セキヤノアキチヨウジ (シソ科) 2007. 10. 17</p>

写真 4. 1. 2 移植した植物注目種